外国語学部　英米学科２年（参加当時）

キングモンクット工科大学参加報告書

留学先での取り組みについて

今回のプログラムは二週間で、前半の一週間と後半の一週間で活動内容が異なっていました。初日にテストを受けましたが、結果がクラスの内容に関係してはなかったと思います。午前に約３時間、午後も約３時間、英語の授業があり、北九大から参加したメンバーのみで授業が行われました。授業ではタイのことを学んだり、先生オリジナルのテキストを使って、座学やアクティビティをしました。座学といっても、リスニング・リーディング・ライティング・スピーキングのそれぞれの分野を勉強していくことがメインで、あまり難しく感じませんでした。ですが、先生の話は興味深く感じました。例えば、タイは日本と同じで英語を外国語として勉強します。そのため英語教育の方法や形式が似ており、その方法で良いのだろうかと話をされていました。また、ニュースやアカデミックな文章などで実際に使われている英単語やフレーズが学べるウェブサイトを使用したり、類義語を調べられるサイトを使ったりと、日本での英語学習に役に立つ情報も教えてもらうことができ、とても有意義な授業でした。授業の合間には小休憩があって、毎回スナックを食べることができました。ときどき、タイでよく食べられているお菓子もあったりして、ちょっとした楽しみの一つになっていました。また、お昼になるとほぼ毎回、先生が食堂やタイ料理が食べられるお店に連れて行ってくれました。時間がある時にはタイのお寺に連れて行ってもらったり、学内で開かれていたバレンタインデーの行事にも参加させてもらうことになり、タイの文化を直接感じることができました。

また、授業終わりや週末には、タイの学生さんたちとバンコク市内に出かけました。私たちの行きたいところまで一緒に来てくれて、買い物やご飯に付き合ってくれました。お土産選びに時間かかる私たちを何も言わず待ってくれたり、何食べたい？と声をかけてくれるなど、優しく接してくれました。そのおかげで、充実した１日を過ごすことができました。バンコクにいた時には、週末、アユタヤに行きました。遺跡を見たり、ゾウに乗ったりしました。その日の活動は楽しかったのですが、暑さに負けてしまいました。２月といっても、タイは夏だったため、気温と湿度が常に高い環境でした。また、アユタヤは観光客が多く、日陰や休む場所もほとんどありませんでした。軽く脱水状態にあったと思うので、もう少し備えておかなければならなかったと感じました。それでもゾウに乗れたので、良い思い出です！

後半の一週間はラチャブリーキャンパスで過ごしました。この週は、北九大のメンバーだけでなく、私たちがタイに来た日と同じくらいの時期にタイに来たフランス人とオーストリア人、そしてバンコクのキャンパスで一緒に過ごした現地学生も何人か一緒に RC キャンパスに行くことになりました。RC はバンコクのキャンパスと比べて、田舎で滞在先の部屋も少し古く感じました。しかし、そんなことを吹き飛ばすくらい、毎回のアクティビティは楽しいものばかりでした。RC のキャンパスにいる学生さんとも交流があり、大人数でゲームをしたり、それぞれの国の文化をプレゼンしたり、サイクリングをしたり、マングローブを見に行って泥に埋まりながら木を植えたり、動物園に行ったり、オリジナルの陶器を作ったり、、、。1 日 1 日があっという間に感じれるほどたくさんの活動をしました。中でも一番印象に残っていることは、動物園でキリンのエサやりをしたことです。キリンと同じ高さでニンジンをあげました。キリンの顔の近さや飲み込まれるんじゃないかと思うくらい長い舌に驚きましたが、日本ではなかなかできることではないため、とても楽しかったです。また、食事後にスポーツをすることもあったり、少し離れたセブンイレブンまでタイ人の学生さんたちと一緒に歩いて行くこともありました。日中の活動も学生との会話も楽しめたし、タイの大自然や文化に触れることもできた貴重な時間だったと思います。

変化や学び、気づき

私はこの語学研修を通して、タイという国のイメージが大きく変わりました。最初は正直、タイは日本よりも治安が悪く、生活環境もそんなに良くないイメージでした。また、オリエンテーションの際に、シャワーの時の水やドリンクの氷などに気を付けることや空気が澄んでいないことなどを聞いて、日本の環境との大きな違いがあることを知り、タイへの渡航に後ろ向きな気持ちになっていました。しかし実際には、水も空気も私にとって大きく影響があったわけではなく、何も怯えることなく生活ができました。出かける際も、タイの学生さんが一緒にいてくれたこともあって、安心して過ごすことができ、治安や街の状況に対する心配が少なくなりました。タイ料理も初めて本場のものを食べましたが、どれも美味しかったです。ほとんどが辛い料理でずっと「It is spicy,but delicious!」と言っていた記憶があります。コンビニはセブンイレブンが多く、おにぎりでタイオリジナルのものも売られており、どれも美味しいものばかりでした。

また、語学研修としてタイへ渡航したので、語学の面での変化や気づきもたくさんあります。まず、タイは日本と同じで英語を外国語として学んでいますが、今回一緒に過ごしたタイの学生さんたちのほとんどが流暢に英語を話していました。訛りや発音などで聞き取りずらい場面もありましたが、私たちに分かりやすく話してくれたと思います。私は、そのおかげで自分の英語で学生さんたちとの会話を楽しむことができました。間違っていた時「言

いたいことってこういうことだよね？」と確認してくれたり、正しく言い直してくれることもありました。別の時には言葉に詰まる私を待ってくれて、真剣に話を聞いてくれることもありました。昨年の夏にカナダに行きましたが、その時とはまた違ったコミュニケーションを取ることができ、新鮮な気持ちでした。そして、いろんな学生さんたちと話したことで会話力も身に付けることができました。一対一の会話は少なく、複数人と同時に話す場面が多く感じました。そのため、情報量も話すスピードもバラバラだし、会話のテンションやその場の雰囲気、ノリなど、それらを全て英語でできたことが一番私の力になったと思います。会話なので、かしこまった言葉や言い回しは使わないし、すぐに言葉を返さないと会話が成り立ちません。そのため、自分の中で英語をすばやく出す練習になったと思います。リアクションも感想も自分なりに相手に伝えられたし、相手もちゃんと受け取ってくれたと思います。そして、昨夏のカナダでの語学研修で気づいた「待っているだけでは相手に興味を持ってもらえないこと」、「英語を話すのは完璧じゃなくていいということ」、「自分の思いや気持ちをしっかりと伝えることの重要性」を改めて実感し、実践し、今回の研修でも大きく成長できたのではないかと思います。

今後にどう活かすか

　アクティビティや滞在中の自由時間を通して、コミュニケーションの機会を多く持てたことが一番印象に残っており、それを一番楽しめたことも今回の研修の中での大きな思い出になりました。そのため、自分の英語が通じ、相手と会話ができるのだという自信を持つことができました。この経験を無駄にしないように、改めて英語の学習を継続していこうと考えています。正直昨夏のカナダ研修の後、自分の英語力を知り、その中でも一か月間の滞在をやり遂げたことに自惚れてしまい、英語に対する興味や関心が薄れたり、自ら英語に触れようとする時間が減り、少し燃え尽きたような気持ちになっていました。しかし、再度英語を使わなければならない環境に置かれ、会話をするようになるとやっぱり楽しいなと感じ、もっともっとという気持ちになりました。特に、タイの学生さんたちとたくさん交流する中で、初対面でも仲良く話せるような言葉選びや話題、どんなテンションや言い方で気持ちを伝えたらいいのか、会話を長く続ける時に使えるフレーズや言葉など、多くのことを学ぶことができました。これらを自分のものにしていくには、積極的に自分の口で使っていくことだと思います。なので、繰り返しにはなりますが、英語の学習を自分の楽しめる範囲で継続していこうと思います。

　また、今回は英語でしたが、日本にいても会話力・コミュニケーション力は必ず必要になることだと思います。今回身に付けたこれらの力を大切にして、これからの学内外での活動に活かしていきたいと思います。